

自治会発行の団地新聞「しらさぎ」

人とのつながりや自然とのふれあいの思い出が重なり、そのまちはふるさとになります。「団地で育つ子どもたちは団地がふるさとになる。」多くの子どもたちが巣立っていった経験を活かし、富田団地で育つ子どもたちへの温かいまなざしは不変です。

1971年（昭和46年）に入居が始まった富田団地。自治会が毎月全戸に配布する団地新聞「しらさぎ」は2017年9月で第494号となりました。「子どもたちの思い出づくりや、お母さん同士の出会い、お年寄りと子どものふれあいなど、人がつながるきっかけをつくるのが私たちの仕事。」と自治会長の渋谷さん。「しらさぎ」の記事を辿りながら富田団地の一年を通じたコミュニティ活動と「暮らしの景」の一部をお伝えいたします。



自治会が発行する団地新聞「しらさぎ」

～子ども達にとっては富田団地が故郷です～

何時になっても心に残る故郷のこと

私たちは何歳になっても、故郷のことを思い浮かべます。その故郷の思い出が、生きていくことの支えになっている時がしばしばあります。悲しいときも、昔の故郷の風景、幼馴染との事を思い浮かべて、生活のエネルギーとしている時が度々あります。子ども達の富田団地での生活が、たとえ1年間でも、その富田団地の1年間が一生心の片隅に残ることでしょう。

子ども達のために良い思い出の残る故郷をつくるのは私たち大人の責任です

大人にとっては、ややもすれば殺風景な共同住宅ですが、これまで以上に子ども達に夢を与える、楽しい思い出の残る富田団地にいたしましょう。・・・花と緑、そして人情のある楽しい、住んでいて良かったと言える、富田団地にしよう。皆で協力しあえば、不可能はありません。子どもが孫を連れて帰ってくる楽しみのある団地になるよう皆で力をあわせましょう。